

伊藤 泰信 (いとう やすのぶ)

知識科学研究科 社会システム構築論講座 助教授 (H17.4.1 採用)

前職

大分県立芸術文化短期大学 専任講師

専門分野

文化人類学 (知識人類学)、知識社会学

研究テーマ

現場 (フィールド) の手触りにこだわりつつ、ローカルな生活知から学問も含む専門知にいたる様々な知が身体・社会・歴史に埋め込まれていること (知の状況依存性) を問い、さらに、知の状況依存性を問う「私 (研究者)」の知も状況依存的であることを捉えかえすアプローチである知識人類学 (知識の文化人類学的研究) の理論的彫琢を目指しています。



本人から一言

私は北陸福井の出身ですので、高校卒業以来、久しぶりに地元に戻ってきたような気がしています。上記の研究テーマを追求するために、主としてニュージーランド先住民マオリの、人口数百人の小さな村で (まるでテレビ番組「ウルルン滞在記」のように) 計2年の滞在期間の多くを過ごしました (マオリ語ができます)。フィールドワーク (現地調査) の対象は、主に村落部の、幼稚園・マオリ学校・部族大学などの教育・研究施設でした。そんなわけで、都会よりも、北陸の田園的な雰囲気のほうが、自分には合っているのではないかと考えています。なじみやすい土地柄である一方で、あたかも異文化空間に迷い込んだ気もしています。本学に着任する前は、男女同数程度の人文系大学院、学術振興会のPD研究員を経て、同じ年代 (20歳前後) の女子学生ばかりの短大に文化人類学担当教員として奉職していました。理工系の雰囲気 (と思われるもの) を強く持つ (男子校のような) 本学は、私にとって新鮮です。そうした異文化空間になじむのに、どの程度時間がかかるか分かりませんが、むしろ、異質な研究 (者の) 活動 (およびその雰囲気) を間近で見せて頂きつつ、また、その「なじみにくさ」を逆手にとって対象化しつつ、自らの知見・研究を開いたものにしていきたいと思っています。研究室への訪問、eメール、些細な質問・雑談、いつでも歓迎いたします。よろしく申し上げます。